学校訓 「凡事徹底・脚下照顧」

挨拶は、みんなをつなぐ合言葉

神崎中だより

令和５年 12 月号

クリスマスコンサート エンディング 「きよしこの夜」

【学校教育目標】「知・徳・体」の調和がとれた未知の状況に対応できる生徒の育成　検索　神崎中

福祉教育（車いすバスケ体験）

１２月１日（金）福祉教育の一環として、車いすバスケットボール選手の大嶋義昭さんをお招きし、２学年を対象に体験活動を行いました。事前に、千葉県障害者スポーツレクリエーションセンターから専用の車いすを 10 台借り、参加者全員が体験をすることができました。生徒たちは、とても意欲的に活動して貴重な体験をすることができました。

様々な動き方を丁寧に教えていただきました。

講師の大嶋義昭選手（NO EXCUSE 所属）

ホイール操作で小回りが効きます。

スピード感、慣れてきました！

ボールを持っての体験です。

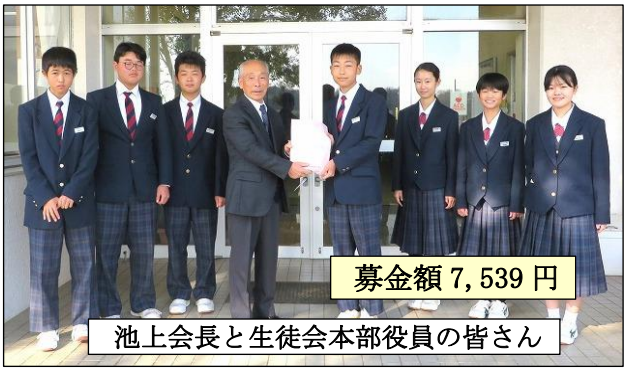
大嶋選手を囲んで

とても貴重な体験ができました！

赤い羽根共同募金

１２月１４日（木）生徒会本部役員の呼び掛けで集まった「赤い羽根共同募金」を、神崎町社会福祉協議会の池上会長にお渡ししました。

共同募金は、都道府県単位で行われ、子供たち、高齢者、障がい者などを支援する様々な福祉活動や、災害時支援に役立てられます。



募金額 7,539 円

池上会長と生徒会本部役員の皆さん

小見川高校出前授業（福祉教育）

１２月７日（木）、小見川高等学校の先生と生徒が来校し、３年生を対象に福祉教育の出前授業を行ってくれました。小見川高等学校は福祉コースや医療コースなどの特色を打ち出しており、今日はその紹介を兼ねた学習内容となりました。生徒たちは、実際に車椅子に乗ったり、目の不自由な方の疑似体験をしたりと、貴重な体験をすることができました。

生徒人権集会　～ 一人一人の大切な人権を意識することが大事！～

１２月８日（金）生徒会主催による生徒人権集会が開催されました。講師の小田幸枝先生（神崎町在住　元小学校教諭）の講演を聞き、命の大切さについて学びました。また、加藤愛理さん（２年）の人権作文『皆、同じ人間』を事前に全校放送で聞き、人権意識を高めました。

『人権週間』について　1948 年 12 月 10 日の国際連合総会において**世界人権宣言**が採択された**世界人権デー**を記念して **12 月 4 日～10 日を人権週間**と定めました。いじめや児童虐待、インターネット上の人権侵害、感染症や障害等を理由とする偏見や差別など、様々な人権問題が依然として存在しています。これらの問題の解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、**「誰か」の問題ではなく、自分の問題として捉え、互いの人権を尊重し合う**ことの大切さについて、認識を深めることが不可欠です。（法務省ホームページから抜粋）

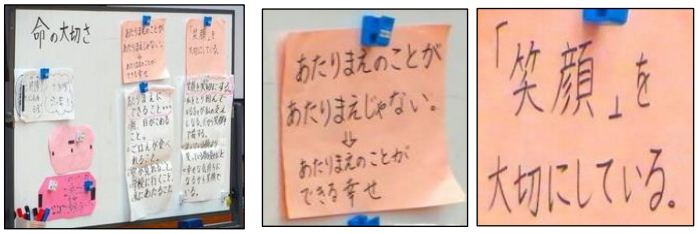
【講演】「命の大切さ」講師 小田幸枝

高校生でお亡くなりになったＡさんが、闘病で頑張っていたときに答えた言葉です。

「どのようなことに幸せを感じますか？」

「あたりまえにできること」

- 「朝、目が覚めること」
- 「ごはんが食べられること」
- 「空が見れること」
- 「学校に行くこと」
- 「風にあたること」



「大切にしているものは何ですか？」

「笑顔を大切にしている。」

- 私を取り囲んでいる方々が私の支えになる。だから、笑顔で接する。
- 泣いている顔を見せるより、笑っている顔を見せること。幸せな気持ちになるから笑顔でいる。

【小田先生から】　「たくさんの勇気と今を生きること、信じること」

子供たちの入院先では、苦しみ、悲しみばかりが混在しているわけではありませんでした。なぜなら、子供たちにたくさんの愛を注いでくれた方々がいたからです。それに応えるように、子供たちは「明日への希望」「未来への希望」があることを信じて、自らを精一杯奮い立たせて、今を大切に生きようとしていました。私は、子供たちからたくさんの勇気と今を生きること、信じることの大切さを教えてもらいました。だから、精一杯生きた子供たちのことを発信していこうと決意しました。

令和５年度　人権作文コンテスト　～ 最優秀賞に加藤さん！～

全国中学生人権作文コンテスト香取協議会大会で、加藤 愛理さん（２年）の作品が最優秀賞に選ばれました。また、石井 凪音さん（２年）、田中 結月さん（２年）の作品が優良賞に選ばれました。なお、加藤さんの作品は、同千葉県大会でも、優秀賞に選ばれました。

今後の人生において、一人一人が人権をずっと意識していくことはとても大事なことです。

『皆、同じ人間』

神崎町立神崎中学校　加藤　愛理

私は小学校３年生のときに大きな病気になり、その後遺症で車いす生活になりました。いわゆる障害者になったのです。それまでとは違う立場になったことで気付いたことがあります。私は今まで障害者が困っているとき、見て見ぬふりをするのは違うと思っていました。しかし、ただ障害者だからといって過度に気を遣うのも差別の一歩だと気付きました。理由は、三つあります。

一つ目が、私が特別支援学校から地元の小学校に戻ったことです。この変化によって、勉強へのやる気が上がり成績も伸びました。普通なら、障害者に慣れている専門の先生と一対一で勉強することが分かりやすいと思われがちですが、私は逆でした。周りのみんなが頑張っている姿を見て、私も頑張ろうと思えたのです。また、特別支援学校ではテストがなく、ただ教科書を読むだけなので自分のペースで進められました。ところが地元の小学校ではみんなが堂々と発表している姿を見て、負けていられないと必死についていきました。障害のある私は、確かにみんなと同じ勉強時間をとることや、塾へ通えるわけではありません。だからこそ、授業の内容をそのときに理解しなくてはと必死になりました。皆についていこうと努力していた結果、勉強量がみんなよりも二倍になっていました。その甲斐あって、今は成績も常に上位にいます。だからこそ、私は障害者といって特別支援学校しか道がないとか、順位をつけるのは可哀想と言ってやめるのは違うと思います。

二つ目の理由は、私には病気になった後も変わらずに接してくれる友達がいます。彼女は昔から私と仲良くしてくれた友達で、私はこの病気になったために、彼女と遊べなくなるのではないかと心配していましたが、彼女は変わらずに私と一緒に遊んでくれました。彼女は以前の私と、遊んでいた遊びを今ならどうやって遊べるか考えてくれたり、私が困っているとすぐに気付いてくれたりします。それを自然にしてくれます。だから私は彼女と気兼ねなく付き合えるのです。彼女の優しさに、本当に嬉しく思いました。彼女は病気や障害を気にせずに接してくれる存在であり、そのことが私にとって大きな支えとなっています。障害者であることは確かに困難なことですが、それに対して可哀想とやみくもに言うのは違うのではないでしょうか。障害者が抱える問題に目を向け、その人に合わせて手助けをすることこそが大切なのです。障害者だからといった特別扱いや、過剰な気遣いをすることは、差別の一歩と私は感じています。

最後の理由は、ある出かけた日のことです。私の車いすのタイヤが、段差に挟まって動けなくなりました。付き添っていた介助者も女性だったために、持ち上げることも出来ませんでした。そんなとき、一人のおじいさんが、「持ち上げましょうか。」と声を掛けてくれました。私は、心から「ありがとうございます。」と言いました。そのおじいさんとは面識がありませんでしたが、その方の優しさに本当に助けられたと感じました。この出来事から私は、改めて見て見ぬふりをせずに助け合うことの大切さを学びました。障害者かどうかに関わらず、誰か困っている人がいたら声を掛けて、助けるような社会になればいいなと思うのです。私たちは皆、同じ人間です。特別扱いをするのではなく、互いに支え合い、声を掛け合う社会を築けるのではないでしょうか。

このことを書いていて、私はたくさんの人に恵まれているなと実感しています。その中で私の考え方を変えてくれた看護師さんがいました。その人は初めて私と対等に接してくれたのです。それまでは、私のことをどことなく可哀想と気を遣う人ばかりでした。しかし、彼女は普通に私と接してくれたのです。その普通が心地よかったのです。なぜ、彼女は私に普通に接することができるのか、彼女の話を聞いて知ることが出来ました。彼女も小さい頃から難病を抱え、入退院を繰り返したそうです。だから、患者の気持ちが分かると説明してくれました。彼女も私と似た経験をしていたのです。その経験から私に壁を感じさせない気遣いができたのです。私はそれを聞いて、この経験を何かに生かせないかなと思うようになりました。私も彼女と同じように、突然病気になった人たちや障害のある人に寄り添い、その人たちが何をして欲しいのか声を聞いていきたいです。私だからこそ聞ける声もあると思っています。そして、それを社会に広げていけるようにしたいです。また、障害者としての経験を通じて、周りの人々が私を支えてくれていることにも感謝しています。障害に関係ある人もない人も、障害者も健常者も同じ人間です。ただほんのちょっと皆さんと比べて、できることが少ないだけ。これを知ってもらいたいです。

クリスマスコンサート 2023

１２月１７（日）クリスマスコンサート 2023 が、神崎ふれあいプラザで４年振りに開催されました。

神崎中学校吹奏楽部は、佐原高等学校吹奏楽部と合同で出演し、とても貴重な経験をすることができました。

佐原高校・神崎中合同ステージ「愛を込めて花束を」

２学期終業式　～２学期振り返り＆３学期抱負～

１２月２２日（金）２学期終業式が行われました。各学年代表生徒から２学期の振り返りと３学期に向けての抱負が発表されました。皆さん、自分の思いをしっかりと伝えることができました。

１学年代表

私が2学期に頑張ったことは、部活動です。陸上大会では、1位に3回なることができました。指導してくださった先生方はもちろん、一緒に頑張ってきた仲間の存在が大きかったです。もう一つ頑張ったことは、合唱コンクールです。私は指揮者だったのですが、指揮を振り続けることは、想像以上に腕に負担がかかり、大変で驚きました。家でも音源を聞きながら自主練をたくさんしました。みんなが協力してくれたお陰で、良い合唱になってうれしかったです。3学期は、2学期よりも部活動での記録や学力が上がるように努力したいです。

２学年代表

私は、2学期に頑張ったことが二つあります。一つ目は、部活動です。今学期は3年生が引退し、合同チームという形になりました。うまくいかないことが多々あって大変でしたが、声を掛け合って頑張れました。二つ目は勉強です。2年生になって勉強が難しくなり思うように順位や点がとれませんでした。ですが、自学をたくさんやったので点や順位が少し上がりました。3学期はワークを2回以上解いたり、授業に集中して取り組んだりして、順位や点を上げられるようにしたいです。

３学年代表

2学期を振り返って私が頑張ったことは二つあります。一つ目は、勉強です。私は英語が苦手でしたが、自分に合う勉強法を見付け、たくさんの文を理解できるようになりました。3学期には、受験があります。冬休みには1日8時間勉強して、更に点数を上げられるようにしたいです。二つ目は、文化祭のメッセンジャーをやったことです。人前で話すことは苦手で、克服しようと自ら立候補しメッセンジャーになりました。声のトーンや表情など意識するところがたくさんありました。本番では、観客が多くとても緊張しましたが、注意点に気を付けながら何も見ずに発表することで、自分に自信がつきました。3学期は、将来のために、今よりも積極的に発言をし、受験を頑張りたいです。

【校長先生の話から（抜粋）】

○校歌斉唱について・・・今年度の始業式・終業式の中で一番良い声が出ていました。特に、３年生の声量と表情は模範となる歌声でした。**母校の校歌を心の宝物**にしてくれたら幸いです。

○挨拶について・・・**「挨拶は、相手より先に」**少し勇気を出して、自分から先に声を出してみましょう。社会に出て、相手より先に挨拶できる人は、必ず良い影響を与えています。

○命の大切さについて・・・竹内まりやさんの「いのちの歌」の歌詞を紹介します。

生きてゆくことの意味　問いかけるそのたびに　胸をよぎる　愛しい人々のあたたかさ・・・
泣きたい日もある　絶望に嘆く日も　そんな時　そばにいて寄り添うあなたの影・・・・
本当にだいじなものは隠れて見えない　ささやかすぎる日々の中にかけがえない喜びがある
いつかは誰でも　この星にさよならをする時が来るけれど　命は継がれてゆく
生まれてきたこと　育ててもらえたこと　出会ったこと　笑ったこと
そのすべてにありがとう　この命にありがとう

※ 生徒の皆さん、この星にさよならをするとき自分がどう生きてきたか・・・後悔しない生き方を意識していきたいものです。